

科目区分：学校教育実践コース（家政教育専修），生活環境コース  
科目名：被服学 登録学生数：26名

## 「被服学」の授業評価

家政教育専修・眞鍋郁代

### 1. 授業の目的と概要

本授業は、家庭科教員免許取得のための専門科目、および生活環境コースの専門科目として、1年次の選択科目となっている。本授業は、衣生活に関する基本的知識の習得を到達目標としている。具体的には、被服の役割、被服素材の性質、被服の選択と管理について学び、習得した知識を実践する力を養うことを目的としている。これは、縫製産業も発達しておらず、個人の縫製技術の向上や合成繊維の知識の獲得などが教育現場で求められていた時代も過去にはあったが、近年において衣生活は、急速に大きく様変わりしており、繊維産業の技術革新、海外への移転に伴い、世界各地からの輸入繊維製品が大量に出回っている。また、高付加価値製品の開発の進歩から、科学体説明を付けた商品が出回り、私たちにとって身近なものとなっている。これらの商品の回転も速く、被服は消耗品の一つとなり、多量の情報を基に消費者の視点から関わるのが余儀なくされているのが衣生活の現状である。

被服学のような実践科学では、実物に触れさせたり教具の工夫を行って被服材料の成り立ちや性能などを学ぶような授業方法が望ましいと考えたことから、本授業では、講義形式の授業で被服材料の成り立ちや性能、原理などについて配布資料等を読んで確かめ、図・写真によってわかるようにし、さらに簡易なモノづくり等によって応用できるように試みた。

なお今年度も、また互いに学び合うことによって、問題の解決には種々な方法があること、協力が大切であることを、体験的に学習をさせることを目的とした班編成を行い、班単位による活動を取り入れている。

<授業スケジュール>

1. イントロダクション・グループ分け
2. 手縫いの基礎縫い実習①
3. 手縫いの基礎縫い実習②
4. 糸の構造に関する学習

5. 織物の成り立ち①
6. 織物の成り立ち②
7. 編物の成り立ち①
8. 編物の成り立ち②
9. 天然繊維について
10. 化学繊維について
11. 洗濯に関する学習①
12. 洗濯に関する学習②
13. ミシンを使った実習①
14. ミシンを使った実習②
15. 試験・まとめ

### 2. 授業の工夫点

#### ～授業時間外学習の促進を目指して～

前半の講義では、市販衣料に使用されている繊維の基礎的な事柄を把握するため、天然繊維・化学繊維など各種繊維の性質についてと糸の構造、織物・編み物の構造による性質の違いについての学習をしている。これは、綿、麻などの天然繊維は古くから用いられ、慣れ親しまれてきたが、それにかわり各種の化学繊維が使用され、質の向上と、用途の多様化とが相まって、現在では天然繊維をはるかに上回る生産量となっており、現代社会においては、いっそう衣服素材を科学的知識によって理解し、目的に合わせて選択し使いこなしていく力が求められているためである。後半の講義では、快適な衣生活を持続するための学習として、洗濯に関する事柄（取扱い絵表示、洗剤の性質等）、手縫い・ミシンを使った実習を取り入れている。

本年度は受講生の授業時間外学習を促進することを目的として、講義時間内で例えば糸、織物、編物の成り立ちや性質と原理について学んだ授業終了後は、毎回ワークシート形式（または簡易レポート形式）で、講義内容に関連した課題を課した。課題は、授業内容の単なる復習でとどまらないように、①講義内容をもとにした発展問題や調べ学習、②知識を教え込むのではなく、実体験を伴った

学習活動とするために、例えば、実物試料と観察器具(計糸鏡等)を受講者全員配布し、各種繊維素材の違いを各自の目で確認させるような活動も時間外学習に取り入れた。

### 3. 授業評価アンケートの実施

#### (1) 受講者の出席状況

本授業は1回生開講の専門科目の選択であるが、受講者は1回生21名、2回生2名、3回生3名の計26名であった。26名のうち、18名が皆勤で69.2%に達する。出席状況からみて受講者は意欲的に授業に参加したと思われる。

#### (2) 授業評価アンケート結果

・各質問項目への回答結果(学生の授業評価, 調査人数20名)

(1) 授業の内容は興味関心が持てるものだったか。

① そう思う (21.4%) ② どちらかといえばそう思う (50.0%) ③ どちらともいえない (28.6%)

(2) 授業の内容は理解できるものでしたか。

① そう思う (28.6%) ② どちらかといえばそう思う (57.1%) ③ どちらともいえない (14.3%)

(3) この授業を全体的にみたときに、どの程度満足していますか

① 満足している (14.3%) ② どちらかといえば満足している (64.3%) ③ どちらともいえない (21.4%)

(4) 授業を受けるに当たって、予習や復習(レポート作成を含む)をしましたか。

① かなり取り組んだ (37.5%) ② 普通にに取り組んだ (56.3%) ③ あまり取り組まなかった (6.3%)

(5) この授業一回当たり、予習・復習・課題レポート等に費やした時間はどのくらいでしたか?

① 2時間程度 (12.5%) ② 1時間程度 (31.3%) ③ 30分程度 (56.3%)

今年度は受講生の授業時間外学習の促進を目的として、各単元講義終了ごとに課題を課したが、受講生の興味・関心、理解、満足度もついては、例年通り、一定のものが得られたようである。但し、肝心の時間外学習時間については、30分程度と答えるものが半数を占めて

おり、各単元学習課題の出し方にまだまだ改善が必要であることを痛感する結果となった。

#### ・DPへの対応度(学生の授業評価)

次に、本授業と教育学部DPとの対応について考える。卒業時に身につけるべき到達目標として、DP1.(知識・理解) DP2.(思考・判断) DP3.(技能・表現) DP4.(関心・意欲) DP5.(態度)が定められている。それぞれの評価調査結果は以下の通りである。(調査人数20名、学部の調査とは別)

DP1.(知識・理解)

どちらかといえば対応していた(11名)

対応していた(1名) 計60%

DP2.(思考・判断)

どちらかといえば対応していた(10名)

対応していた(1名) 計55%

DP3.(技能・表現)

どちらかといえば対応していた(9名)

対応していた(7名) 計80%

DP4.(関心・意欲)

どちらかといえば対応していた(11名)

対応していた(7名) 計90%

DP5.(態度)

どちらかといえば対応していた(10名)

対応していた(5名) 計75%

本授業と教育学部DPとの対応については、DP3.~5.については、7割以上の学生が「(どちらかといえば)対応している」との回答を得たが、DP1.と2.については5割前後にとどまった。このことから、この授業の課題として、単元ごとの学習課題が講義の復習にとどまってしまうことにあるように思われた。

### 3. おわりに

受講生の授業時間外学習を促進する学習を目指して、今年度は本授業で各単元ごとに学習課題を課すやり方取り入れたが、今回はこの学習が講義の復習にとどまってしまうことから、次年度以降の改善点として、授業の復習だけに偏らない、予習学習にも目を向けた課題にシフトする必要性を感じた。予習活動を促す試みとしては、次時の授業内容のアナウンスを十分にした上で、負担にならない程度のミニテストの実施などが考えられた。また、この分野の学習を自主的に深めるきっかけづくりとして、授業時における研究論文の紹介の仕方についても考えていきたい。